

平成 19 年度第 6 回岐阜県事業評価監視委員会

【事後評価審議資料】

事後評価審議箇所一覧表1
平成 19 年度 事後評価箇所表	
湛水防除事業【福束】 ^{ふくづか} 2 ~ 6
ふるさと林道緊急整備事業【神原 ~ 数河】 ^{かんばら すごう} 7 ~ 8
水源地域緊急整備事業【駄吉】 ^{だよし} 9 ~ 10
道路改築事業【(主)岐阜環状線】11 ~ 13
公共 特定緊急砂防事業【平沢谷】 ^{ひらさわだに}14 ~ 16
公共街路事業、緊急地方道路整備事業、地方特定道路整備事業【(都)大垣駅北口線】17 ~ 18

平成19年度事後評価審議箇所一覧表

No	担当課名	工種名	県事業		事業採年	業 択 度	完 年 成 度	全 体 事 業 費 (百万円)	事 業 名	地 区 名 (路線名・河川名等)	施 工 場 所	現 地 機 関
			補助	県単								
1	農地整備課	農業農村整備事業			S63	H13	3,901	湛水防除事業	ふくづか 福束	輪之内町	西濃農林事務所	
2	森林整備課	林道事業			H5	H17	2,132	ふるさと林道緊急整備事業	かんばら すごう 神原～数河	飛騨市 (旧古川町、神岡町)	飛騨農林事務所	
3	治山課	治山事業			H7	H14	602	水源地域緊急整備事業	だよし 駄吉	高山市 (旧丹生川村)	飛騨農林事務所	
4	道路建設課	道路事業			H7	H17	16,100	道路改築事業	(主)岐阜環状線	岐阜市日野	岐阜土木事務所	
5	砂防課	砂防事業			H12	H14	757	公共 特定緊急砂防事業	ひらさわだに 平沢谷	高山市 (旧清見村)	高山土木事務所	
6	街路公園課	街路事業			H8	H17	4,258	公共街路事業、緊急地方道路整備事業、 地方特定道路整備事業	(都)大垣駅北口線	大垣市	大垣土木事務所	
事業数計			5	2								
			6									

別紙平成 1 9 年度事後評価箇所表

番 号		事 業 名 (路線名等)	<small>たんすい</small> 県営湛水防除事業 <small>ふくづか</small> 福束 地 区
実施箇所	安八郡輪之内町地内 (関係市町：輪之内町、海津市)	全体事業費	3 , 9 0 1 百万円
採択年度	昭和 6 3 年度	完了年度	平成 1 3 年度
事業目的	<p>地区内の開発による流出量の増加、地盤沈下に伴う排水不良が生じたため、この状況を改善し農地被害、宅地・道路等の浸水被害を防ぐ排水機場の整備を実施。</p>		
事業概要	<p>排水機場整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械工 3 基 (口径 1, 6 5 0 mm 立軸斜流ポンプ) ・ 除塵機工 3 基 (ロータリーレーキ式) ・ 建屋工 7 5 2 m² ・ 排水路工 1 , 6 5 0 m 		
概 要 図	<div style="text-align: center;"> <h3>県営湛水防除事業 福束地区 計画一般平面図</h3> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>福束排水機場 (新設) 口径 1, 6 5 0 mm × 7 7 0 kw × 2 台 口径 1, 6 5 0 mm × 1, 1 6 0 ps × 1 台 Q = 1 7 . 8 8 m³ / 秒</p> </div>		

評価結果

住民参加・協働による効果

- ・事業採択の前年度までに、受益者である福束輪中土地改良区地に対し、「事業説明会」を実施し、また事業実施中においても毎年、土地改良区と排水機場・排水路工事現場近隣自治会への「工事説明」を行っている。また、地元の要望を工事に反映している。（不安定な状態の排水路既設防護柵の補強、旧ポンプの展示等）
- ・「グラウンドワーク」輪之内により、町民、企業、行政が一体となり、毎年約400人参加による大樽川の清掃が行われている。
- ・「ふるさと農村魅力再発見バスツアー」等で、地域住民の方々に排水機場の役割、必要性への理解を深めてもらえるよう説明を行っている。

事業効果

- ・施設完成後、地区内の湛水被害は減少。

H16.10.20 ~ 10.21 台風 23 号

日 雨 量：231.0mm（1/40年確率） 計画日雨量：204.0mm（1/20年確率）

【 実 例 】

湛水面積（10 cm 以上）：373ha
最大湛水深：50cm
↓
24 時間湛水
湛水面積（10 cm 以上）：184ha
被害額 55,000 千円
（計画を上回る降雨により被害発生）

【未整備の場合・想定】

湛水面積（10 cm 以上）：514ha
最大湛水深：68cm
↓
54 時間湛水
湛水面積（10 cm 以上）：184ha
被害額 130,000 千円

湛水時間
30 時間短縮

- ・平成16年の台風23号では、湛水時間が30時間短縮、湛水面積も141ha軽減されたと想定される。
 - ・未整備の場合は、湛水時間が延び被害はさらに拡大し野菜130百万円の被害と想定されることから、当事業の湛水被害防止効果は高いと考える。
- なお、事業完了後の投資的効果率は1.4である。

事業計画

日雨量：204.0 mm (1/20 年確率)

3 日間雨量：280mm (1/20 年確立)

【 整 備 後 】

【 未整備の場合・想定 】

湛水面積 (10 cm 以上) : 372ha	湛水面積 (10 cm 以上) : 708ha
最大湛水深 : 39cm	最大湛水深 : 63cm
↓ 20 時間湛水	↓ 52 時間湛水
湛水面積 (10 cm 以上) : 184ha	湛水面積 (10 cm 以上) : 184ha
被害額 - 千円	被害額 5,634,402 千円

湛水時間 32 時間短縮

環境面への配慮

- ・排水機場建設現場における湧水の排水について、掘削時にウェルポイント工法を採用し、河川への濁水流出の防止を図った。

事業を巡る社会情勢の変化

- ・地球温暖化、化学物質による汚染など環境問題への関心が高まる中、農業分野でも残留農薬や農地の荒廃等による生活環境の悪化が心配されている。
- ・また、少子高齢化が進む中、農業従事者についても3人に2人が高齢者となっており、今一層の農業従事者の高齢化の進行、担い手が不足することが懸念されている。
- ・このように、農村が厳しい問題に直面しているなかで、本事業地区（輪之内町）においては、以下の取り組みを行い、現状に対応しようとしている。
 - ・本事業による排水対策と、低コスト経営を目指した圃場整備事業（大区画）推進により、転作の拡大及び農業経営が大規模化。
 - ・農薬、化学肥料を削減した「ぎふクリーン農業」や、担い手を対象とした経営の安定を図る「品目横断的経営安定対策」、農地・水路等に対し良好な環境と資質向上を図るため、地域ぐるみで共同活動を行う「農地・水・環境保全向上対策」への取り組みを実施。

基盤整備（圃場整備）の進捗状況

年 度	S63	H13	H18
実施面積 (ha)	0	272	412

標準区画

0 . 1 ha 1 ~ 3 ha(大区画化)

転作状況

年 度	S63	H13	H18
小麦 (ha)	113	128	130
大豆 (ha)	22	62	82

排水状況が良くなったことから大豆の作付け面積が増加。

H18 数値は暫定値

ぎふクリーン農業の取組状況

- ・平成 12 年から 3 組織 4 農家取り組み。

米 60.6ha、トマト 1.6ha、キュウリ 0.6ha

品目横断的経営安定対策への取組状況

- ・平成 19 年から 15 組織 2 農家取り組み。

米 63.9ha、麦 127.1ha、大豆 62.2ha

農地・水・環境保全向上対策への取組状況

- ・平成 19 年から 22 組織取り組み。

1,104ha (田 1,003ha、畑 101ha)

利用者・地域住民等への効果

- ・アンケートの結果から、事業完了後の台風等豪雨を経験された地元住民の3/4の方が、排水状況がよくなったと実感され、事業効果が発現されていると考えられる。
- ・具体的な意見
「大雨でも早く水が引くようになった。」「湛水時間が減った。」
「役員だけの説明でなく、一般地域住民の中で関心のある人も入れて説明があると良い。」
- ・今後は、説明の範囲や方法を変えていく必要がある。

対応方針

【今後の事後評価の必要性】

- ・アンケート結果から、排水機場の整備により洪水から地域の安全が守られているという安心感が高まっていること、平成 16 年の台風 23 号による豪雨においても、この地区では被害が少なく効果が発揮されていること、小麦・大豆等の作付け条件の改善にも寄与していること、施設は福束輪中土地改良区等により引き続き適切な管理が行われることから、今後の事業評価は必要ないものと考えられている。

【改善措置の必要性】

- ・特になし。

【新規事業への適用すべき留意点】

- ・事業説明は受益者へはもとより、地域住民へも幅広く行い、「計画 実施 管理」の各事業段階で「住民協働」による事業実施を図っていく。
- ・具体的には、事業中及び事業完了後には、地元小中学生・地域住民を対象とした排水機場の仕組みや働きを学ぶ見学会を開催する等が考えられる。

平成 19 年度事後評価箇所表

担当課〔 森林整備課 〕

番 号	3	事業名 (路線名等)	ふるさと林道緊急整備事業 (神原～数河線)
実施箇所	飛騨市神岡町柏原から 飛騨市古川町数河地内	全体事業費	2,132 百万円
採択年度	平成 5 年度	完了年度	平成 17 年度
事業目的	<p>飛騨市神岡町柏原から飛騨市古川町数河に至る稜線に沿って広がる森林の多面的機能を高度発揮するため、適正な森林施業の推進、効率的な木材搬出による生産性の向上、山村地域の振興と定住環境の改善を目的とする。</p>		
事業概要	<p>林道開設 延長 L = 8,898 m 幅員 W = 5.0 m</p>		
概要図			

評価結果	
住民参加・協働による効果	<p>事業着手時には、各町村（飛騨市へ合併前は古川町、神岡町）が主体となり、地権者及び地域住民に説明を行った。また、古川町、神岡町が一体となり「神原数河林道開設促進協議会」を設立し、県との連絡調整を行った。</p> <p>事業完了後には、自然と景観豊かな林道の活用を図ることを目的に「林道神原数河線活用促進協議会」が設立され、休憩施設の設置、林道沿線の清掃などが続けられており、協力がえられている。</p>
事業効果	<p>当林道の利用区域には民有林人工林が488haある。林道が開設したことから、森林施業を行うための交通の便の向上が図られた。</p> <p>また、乗鞍岳や御岳、北アルプス連峰が一望できるため、林道を利用したイベントなどを通じて、訪れる方に森林浴と景観を親しんでもらっている。</p>
環境面への配慮	<p>本林道は、林地の改変を極力少なくするため、尾根部を通過し環境へ与える影響の低減を図りました。</p> <p>また、間伐材の利用促進および景観に配慮し、丸太伏工、木製視線誘導標、木製路肩保護工などを施工し、間伐材を積極的に使用した。</p>
事業を巡る社会情勢の変化	<p>地球温暖化対策として、国レベルで間伐対策を推進しているが、現状程度の森林整備量では京都議定書で約束された温室効果ガス6%削減のための森林吸収量1,300万炭素トンが確保できない。そのため、森林整備を更に推進していく必要がある。</p> <p>このような情勢のなか、本事業により林道を開設したことにより、森林所有者へ森林整備の促進が図られつつある。</p>
利用者・地域住民等への効果	<p>アンケート調査を実施したところ、林道利用者は約8割にも達し、月に2回以上という人も約3割と頻度は高く、また、観光者等も利用していることがわかり、事業の効果が発揮されていると考えられる。そのほか、森林施業に役立つという意見や眺望の良い道路ということで、起終点の位置をPRすべきとの意見もあった。</p>
対応方針	<p>森林整備の実績やアンケート結果等から、事業効果は発揮していると判断されるため、今後の事業評価の必要性はないと思われまます。</p> <p>住民が林道を利用する頻度も高いこと、今後更に活用されるためにも案内看板の設置や、安全施設の設置などが必要と考えられ、森林整備を行ううえでは既設作業道の接続を図ることも必要と考えます。</p> <p>新規事業へ適用すべき留意点としては、周辺環境に配慮した、計画や施工、また、計画時には多くの地域住民の意見を取り入れた計画づくりや、効率的・効果的に森林施業を行うには、林道と作業道を組み合わせた路網整備が必要であることから、林道から伸びていく作業道が開設しやすい道路構造、線形決定といった計画づくりが必要。</p>

平成 1 9 年度事後評価箇所表

担当課〔治山課〕

番 号		事業名 (路線名等)	水源地域緊急整備事業 駄吉(だよし)
実施箇所	高山市丹生川町駄吉		全体事業費 602百万円
採択年度	平成7年度		完了年度 平成14年度
事業目的	<p>当地区は、高山市の中心から東方約 15km に位置し、小八賀川左岸にあり、高山市の重要な水源地域となっている。</p> <p>当地区は、急峻な地形かつ脆弱な地質のため崩壊地が多数分布しており、降雨の度に土砂が流出し、小八賀川流域で最も河川の濁りが高い地区となっていた。</p> <p>このため、土砂流出の防止、水源かん養機能の向上を主な目的として溪間工や山腹工の整備、荒廃森林の整備を実施した。</p>		
事業概要	<p>溪間工：8基（谷止工(コ)6基、谷止工(鋼)2基）</p> <p>山腹工：0.7ha（土留工 22基、実播工 5,148.0m²、筋工 1,253.0m、伏工 6,071.0m²ほか）</p> <p>森林整備：134.4ha（本数調整伐 103.0ha、枝落とし 28.9ha、下木植栽 15.4haほか）</p> <p>作業道：開設 W=3.6m、L=693.1m、改良 L=1056.2m、歩道開設 2,000.0m</p>		
概要図			

評価結果	
住民参加・協働による効果	<p>計画時および実施時において、地域住民等からの意見要望等を吸収しつつ、事業を推進した。</p>
事業効果	<p>当事業の実施後、土砂の流出が抑制され、小八賀川の濁りが減少している。 (小八賀川にある高山市の下切取水口にて、濁水(250ppm以上)発生回数の平均(1平均/4年)を事業実施前、中、後にて比較すると、事業実施前：15回、事業実施中(前半)：9.75回、事業実施中(後半)：8.75回、事業実施後：4.5回となっている。)</p> <p>また、当地区にある生活用水や農業用水の取水堰等への土砂流出も抑制されており、地元住民の生活環境の向上に寄与している。</p>
環境面への配慮	<p>鋼材の枠の中に石礫を詰める鋼製自在枠やかご枠などの工法や間伐材を利用した工法を積極的に採用し、環境への負荷低減を図るとともに、小動物の生息環境の確保や植生の誘導を図った。</p>
事業を巡る社会情勢の変化	<p>地球温暖化対策として、全国的に間伐対策を推進しているが、現状程度の量では京都議定書の目標が達成できないため、森林整備を更に推進していく必要がある。</p> <p>そのような情勢の中、本事業により森林整備を実施したことが、所有者へ森林整備を啓発することにもなり、新たな作業路が開設されるなど森林整備が進みつつある。</p>
利用者・地域住民等への効果	<p>地元住民 25 世帯にアンケート調査した結果(回答率 100%)、地元住民の 7 割の方が、事業全体の評価として「満足、やや満足」と回答している。</p>
対応方針	<p>【今後の事後評価の必要性】</p> <p>当事業の実施後、土砂の流出が抑制され、小八賀川の濁りが減少している。当地区にある生活用水や農業用水の取水堰等への土砂流出も抑制されており、事業の効果が現れている。また、アンケート調査の結果、住民の満足度も高い。よって、事業目的を十分果たしていると判断できるため、今後の事後評価は必要としない。</p> <p>【新規事業への適用すべき留意点】</p> <p>事業計画時には地域住民との情報連絡を密にし、地域住民等からの意見要望等の吸収に加え、森林の意義・重要性に関する普及啓発を積極的に行い森林整備への関心と意識改革を促して、行政及び森林所有者の両方で森林機能の維持・回復に努めていく必要がある。</p>

平成 19 年度事後評価箇所表

番 号		事業名 (路線名等)	道路改築事業 主要地方道 岐阜環状線
実施箇所	岐阜市日野～達目洞地内	全体事業費	161億円
採択年度	平成7年度	完了年度	平成17年度
事業目的	<p>主要地方道岐阜環状線は、一般国道21号、156号と連携し、岐阜市中心部の外郭をループ状に結ぶ延長13.6kmの道路であり、岐阜地域の重要な幹線道路である。</p> <p>日野工区はこのうち、鶴飼い大橋南部から国道156号までの約1.34kmの事業である。当該工区の4車線化により環状道路は概ね完成し、長良川渡河部の渋滞の緩和、国道256号沿道や日野南地区の市道沿道の環境改善に効果をもたらしている。</p>		
事業概要	日野工区 事業延長 1,340m 車道幅員：13.0m(4車線) 歩道幅員：7.0m(両側歩道)		
概要図			
井ノ口トンネル標準断面図			

評価結果										
	<p data-bbox="231 241 614 275">住民参加・協働による効果</p> <ul data-bbox="191 293 1401 376" style="list-style-type: none"> ・(主)岐阜環状線の整備に伴い、住民活動として交通安全活動、緑化活動、清掃活動、環境保護(除草作業)が開始・継続され、岐阜市の総合学習にも活用されている。 									
	<p data-bbox="231 436 359 470">事業効果</p> <ul data-bbox="191 488 1380 1008" style="list-style-type: none"> ・平成18年2月に岐阜環状線が全線4車線化され、市中心部の交通量が減少した。 <table data-bbox="470 533 1284 566"> <tr> <td>整備前H15.1.22</td> <td>暫定時H16.10.13</td> <td>完成時H19.9.19</td> </tr> </table> <p data-bbox="231 584 1268 618">【長良橋渡河部 26,225台/12h 20,558台/12h 17,785台/12h】</p> ・救急医療施設へのアクセス性が向上し、緊急搬送時間の短縮が図られた。 <table data-bbox="726 680 1348 714"> <tr> <td>整備前H15</td> <td>暫定時H16</td> <td>完成時H19</td> </tr> </table> <p data-bbox="231 730 1348 763">【長良東地区 岐阜県総合医療センター 約15分 約12分 約10分】</p> <p data-bbox="231 779 1348 813">【長森地区 国立長良病院 約14分 約12分 約12分】</p> ・市中心部の交通量が減少し、市内の主要な交差点での渋滞長が軽減した。 <table data-bbox="582 875 1380 909"> <tr> <td>整備前H15.1.22</td> <td>暫定時H16.10.13</td> <td>完成時H19.9.19</td> </tr> </table> <p data-bbox="231 925 1252 958">【長良橋南交差点(北進) 620m 140m 110m】</p> ・日野工区のB/Cは2.6であり、十分な費用対効果が見込まれる。 	整備前H15.1.22	暫定時H16.10.13	完成時H19.9.19	整備前H15	暫定時H16	完成時H19	整備前H15.1.22	暫定時H16.10.13	完成時H19.9.19
整備前H15.1.22	暫定時H16.10.13	完成時H19.9.19								
整備前H15	暫定時H16	完成時H19								
整備前H15.1.22	暫定時H16.10.13	完成時H19.9.19								
	<p data-bbox="231 1064 454 1097">環境面への配慮</p> <ul data-bbox="191 1115 1412 1395" style="list-style-type: none"> ・植生を保護するため、地形改変を最小限にする工法を採用。 ・現地に生息しているヒメコウホネの保護のため、岐阜まちづくりの会が主催する除草・清掃作業などが行われており、完成後において、植物相、昆虫類の確認種数も増加している。 ・周辺の自然環境に配慮し、井ノ口トンネルの坑門タイプを面壁式から竹割り式に変更している。 									
	<p data-bbox="231 1451 614 1485">事業を巡る社会情勢の変化</p> <ul data-bbox="191 1503 1412 1637" style="list-style-type: none"> ・環状線の供用により、市街地内を通過する交通が減少し渋滞が緩和された。 ・鵜飼い大橋の供用後、長森と長良にあった消防署の出張所が統合され、鵜飼い大橋左岸側に鵜飼分署が建設されたことで、地域防災拠点の集約化が図られた。 									
	<p data-bbox="231 1697 646 1731">利用者・地域住民等への効果</p> <ul data-bbox="191 1749 1412 1928" style="list-style-type: none"> ・事業に対する総合評価では、約7.5割の人が満足・やや満足していると回答。 ・混雑解消・時間短縮に対して約8割の人が満足・やや満足していると回答。 ・左岸堤防道路の堤内側移設により、夜間走行車両の照明が低減され、漏光による鵜飼いへの影響が低減されたものと思われる。 									

対応方針

(今後の事業評価の必要性)

・アンケートによる総合的評価の結果、満足度が高いため、今後の事業評価は必要としない。

(改善措置の必要性)

アンケートにおける改善要望等

要望1) 国道156号との合流箇所の改善

対応1) 平成19年度中に国道156号が4車線化されるため、合流方法が一旦停止から導流路形式に変更することにより、さらなる改善が図られる予定。

要望2) 鶴飼い大橋・ヒメコウホネ高架橋の照明改善

対応2) 供用開始後、照明にルーバーを取付ける等対応済。

周辺関連要望

要望) 鶴飼い大橋北詰交差点の渋滞

対応) 渋滞対策を検討中

新規事業へ適用すべき留意点

事業計画段階から地域住民の方々の意見聴取の場を設け、計画に反映することが必要。

平成 1 9 年度事後評価箇所表

番 号		事 業 名 (路線名等)	特定緊急砂防事業 平沢谷	
実施箇所	高山市 清見町 江黒地内		全体事業費	757 百万円
採択年度	平成 1 2 年度		完了年度	平成 1 4 年度
事業目的	<p>岐阜県高山市清見町江黒地内では、平成11年9月14日から15日にかけて台風16号の影響による集中豪雨に見舞われ、土石流と流木により甚大な土砂災害が発生した。このため、県では平成11年に土砂崩壊等の危険な状況に緊急に対処するため災害関連緊急砂防事業を行った。更に、平成12年度から平成14年度にかけて、同規模の土石流が再び発生した場合でも安全が確保されるよう特定緊急砂防事業を実施した。</p>			
事業概要	関係市町村 高山市 清見町（旧清見村） 特定緊急砂防事業 事業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 坂沢谷：溪流保全工 L=129m ・ 葛谷：単独床固工 N=2基、溪流保全工 L=49.5m ・ 千原谷：砂防堰堤 N=1基、溪流保全工 L=129m ・ 平沢谷：砂防堰堤 N=1基、付替林道工 L= 330m 			
概要図	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【平沢谷】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害関連緊急砂防事業(H11) 砂防堰堤 N = 1基 溪流保全工 L = 63.6m ○特定緊急砂防事業(H12~H14) 砂防堰堤 N = 1基 付替林道工 L = 330m </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【葛谷】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害関連緊急砂防事業(H11) 砂防堰堤 N = 3基 ○特定緊急砂防事業(H12~H13) 溪流保全工 L = 49.5m 単独床固工 N = 2基 </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【千原谷】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害関連緊急砂防事業(H11) 砂防堰堤 N = 1基 溪流保全工 L = 171.3m ○特定緊急砂防事業(H12~14) 砂防堰堤 N = 1基 溪流保全工 L = 129m </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【坂沢谷】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害関連緊急砂防事業(H11) 砂防堰堤 N = 1基 溪流保全工 L = 162.1m ○特定緊急砂防事業(H12~H13) 溪流保全工 L = 129m </div> </div> <p>至飛騨市街 飛騨市河合町 高山市 高山市清見町 至高山市街 東海北陸自動車道</p>			

評価結果	
住民参加・協働による効果	
<p>住民との協働によるソフト対策 (防災力を高める施策の実施)(H13~H14)</p> <p>砂防施設が完成したとしても、異常豪雨時には土砂災害の発生する可能性が否定できない。地域住民の早期避難の判断材料となるよう災害体験をもとに、被災状況を記録した「地域防災学習マップ」を地域住民と協働で作成した。</p> <p>地域防災学習マップ作成懇談会(地域住民・行政担当者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の前兆現象等の把握 ・災害時の情報伝達、避難の問題点の明確化 <p>地域の防災力を高める学習会(被災地域住民・旧村内の防災リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災学習マップの使い方、雨量情報等の入手方法を学習した。 <p>累積降雨の増加とともに身近で発生した事象をマップに書き込み、累積雨量別の災害発生状況を整理し、累積雨量が210mm以上では避難経路が危険な状態になるため、累積雨量が150mmを越えたら早めの避難行動をとる必要があることが示された。</p> <p>(現在の住民の避難行動に寄せる意識調査)</p> <p>地域防災学習マップや土砂災害危険区域図の認知度は高いが、大雨の際の避難行動の必要性に対しては、必要ないとの意見があり、また平成16年の台風23号豪雨時においても、実際に避難した人は1名に留まり、早期の避難行動に結びついていない現状がある。</p> <p>今後も早期避難に向けて、地域住民への啓発を進める必要がある。</p>	
事業効果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成11年災害と同規模の集中豪雨であった平成16年台風23号豪雨時にも、土石流は発生したが、砂防堰堤内で全て止まり、保全区域に土砂災害による被害を発生させなかったことから、砂防施設の効果を十分に発揮した。 ・費用対効果(B/C)は、坂沢谷1.62、葛谷1.41、千原谷1.14、平沢谷1.30である。
環境面への配慮	
	<ul style="list-style-type: none"> ・
事業を巡る社会情勢の変化	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本地区の人口・世帯数の動向は、世帯数が11戸から13戸に、人口が31人から27人と、現状を維持している地域である。 ・周辺土地利用形態の変化として、東海北陸自動車道が新設された。 ・公共施設の変遷として、被災後、旧池本小学校校舎は取り壊され、宿泊研修施設・高齢者活動施設として利用される多目的施設「やまびこの家」が新設された。
利用者・地域住民等への効果	

- ・ アンケートの結果によると、事業の満足度に関して、「大変満足」「やや満足」が56%、「普通」31%、「やや不満」13%であった。
- ・ 事業の実施について、満足している意見が過半数であり、一定の評価がなされていると考えられる。
- ・ 「上流に崩壊地が多いので堰堤の裏の土砂を早めに取り除いてもらいたい」という適正な維持管理を望む声も多い。

対応方針

【今後の事業評価の必要性】

- ・ 事業完成後、施設効果が発揮され土砂災害が発生しておらず、地域住民の砂防施設に寄せる満足度も高いことから、今後の事後評価の必要性はない。

【改善措置の必要性】

- ・ 現状において、施設の損傷・不具合は無く、施設整備後発生した土石流に対して効果を発揮している。
- ・ 但し、堆積土砂の除去等の適切な維持管理は必要となるが、改善の必要性はない。

【新規事業への適用すべき留意点】

砂防事業の効果と砂防事業での限界の周知

- ・ 砂防事業を実施するにあたり、事業の概要説明及びその有効性・効果について、地域住民に十分な説明を行う。
- ・ 砂防施設が完成したとしても、異常豪雨時には土砂災害の発生する可能性は否定できないため、砂防事業での限界について地域住民に十分な周知を行う。
- ・ 事業対象地域の他にも、土砂災害の危険な地域が残されている現状を、地域住民に十分な説明を行う。


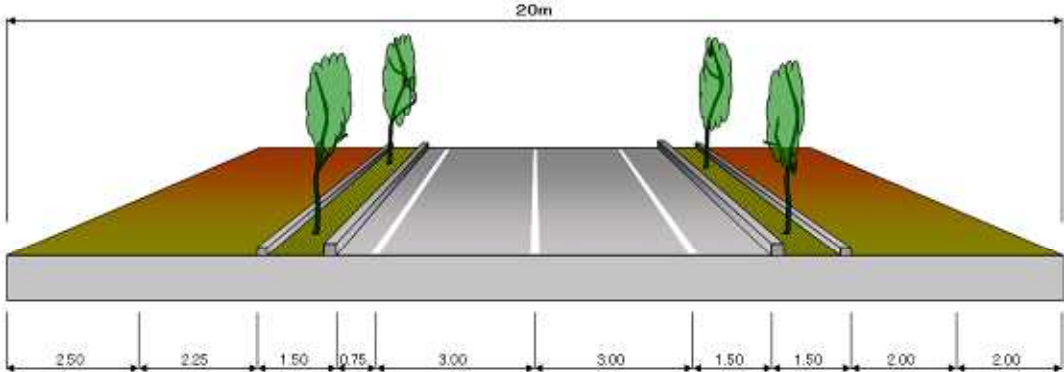
災害時の早期避難等の必要性の認識を継続的に図る

- ・ 土砂災害防止においては、施設設置【ハード対策】とともに、早期の避難行動等【ソフト対策】が必要不可欠であり、地域住民の避難行動に対する意識の向上を継続的に図る。

住民協働の元での適切な維持管理

- ・ 地域住民からの災害時や平常時における情報提供を有効に活用し、砂防施設が継続的にその効果を発揮出来るよう、適切な維持管理を行う。

平成 1 9 年度事後評価箇所表

番 号		事業名 (路線名等)	公共街路事業・緊急地方道路整備事業等 都市計画道路 大垣駅北口線
実施箇所	大垣市林町地内～大垣市中川町地内	全体事業費	4,258百万円
採択年度	平成8年度	完了年度	平成17年度
事業目的	<p>本路線は、JR東海道線大垣駅より北に延びる、大垣駅を中心とした市街地と国道21号を南北に結ぶ幹線道路である。現道は幅員が狭く、また周辺には学校等の公共施設も多く、通勤・通学等駅利用の車両により交通に支障をきたしていた。当該箇所を整備することにより安全で円滑な交通の確保、自転車・歩行者の安全で快適な通行空間の確保及び、駅北地区の市街地活性化を図る。また、併せて電線共同溝事業を施工することにより、都市景観及び都市防災機能の向上等も図る。</p>		
事業概要	<p>事業延長 1,112 m 車道幅員 6.0(20.0) m(2車線) 歩道幅員 11.75 m(両側) 電線共同溝 2,224 m(両側)</p>		
概要図	 <p>The map shows the project area in a red box, labeled '大垣駅北口線'. It is located north of Daini Station (大垣駅), connecting National Route 21 (国道21号) and National Route 258 (国道258号). The station is marked with a black circle and labeled '大垣駅'. The map also shows surrounding streets and landmarks.</p>		
	 <p>The diagram shows a cross-section of the road with a total width of 20m. The road has two lanes, each 3.00m wide, separated by a 0.75m median. On both sides, there are sidewalks, each 1.50m wide. The total width of the road and sidewalks is 20.00m. The diagram also shows trees and a utility trench.</p>		
	<p>標準断面図</p>		

評価結果	
① 住民参加・協働による効果	<p>沿線住民で構成する「夢づくり会議」により、県事業と調整を図り道路余剰地に公園を住民が自ら整備し清掃活動を実施するなど、地域における参加意識の向上に大きな役割を果たしている。</p>
② 事業効果	<p>通学する学生、学童と自転車の安全が確保された。 交通量が分散することにより、県道大垣一宮線及び国道 258 号の交通量が減少した。事故発生件数が減少した（整備前（平成 16 年次）10 件と整備後（平成 18 年次）3 件で約 70 % 減少） 電線共同溝事業により都市景観機能が向上し、快適な都市空間が確保されるとともに都市防災機能が向上した。</p>
③ 環境面への配慮	<p>透水性舗装や排水性舗装をすることで、ヒートアイランド対策や騒音の低減を図られた。 樹齢約 100 年の貴重なクスノキを歩道内に残し都市景観に配慮した。</p>
④ 事業を巡る社会情勢の変化	<p>沿線地域に総合病院が新たに開院したり、大規模商業施設が開業するなど地域の活性化が図られた。</p>
⑤ 利用者・地域住民等への効果	<p>アンケート調査の結果、沿線住民やドライバーの約 6 割が満足しているとの回答を得られた。</p>
対応方針	
	<p>(1) 今後の事業評価の必要性 アンケート結果より高い住民満足度が得られており、事業効果が十分に発揮されていることから、今後の事後評価の必要はないものと思われる。</p> <p>(2) 改善措置の必要性 改善措置の必要性は無し。</p> <p>(3) 新規事業へ適用すべき留意点 本事業においては、工事着手後に住民等から車止めの設置や、横断歩道付近の安全対策について要望があり対応を行うこととなった。市街地においては、道路利用者が多く利用者に応じて様々な要求が想定されるため事前に十分な検討・調整を行うことが必要である。</p>